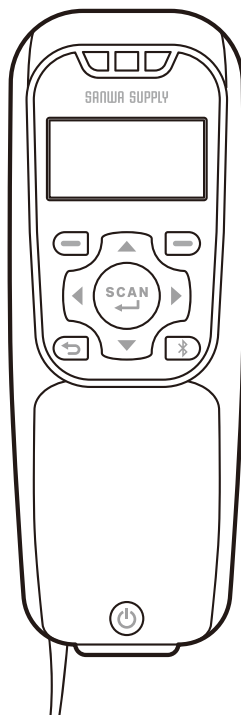


モバイルワイヤレス 2次元バーコードリーダー (液晶付き・照合機能搭載)

設定コードガイド

ver.1.0

※先に製品同梱の **取扱説明書** をご確認ください。



本製品は専用の設定コードを読み取ることで、様々な設定を変更できます。



設定コードを読み取るときは、
読み取りたいコード以外を隠して読み取ってください。
別のコードを読み取って設定がうまくできない場合があります。

デザイン及び仕様については改良のため予告なしに変更することがあります。

本書に記載の社名及び製品名は各社の商標又は登録商標です。

サンワサプライ株式会社

目 次

はじめに

設定コードの使用方法 P.10

スキャン部のLED設定

白色LED P.11

赤色エイミングレーザー... P.11

2次元コード読み取り設定 P.12

センターモード設定 P.13

スキャンモード設定 P.14

大文字・小文字変換 (Case Conversion) 設定

読み取り可・不可 P.15

データのみ P.15

文字列全体 P.16

UPC-A 設定

読み取り可・不可 P.17

チェックデジットの転送 ... P.17

付加コード(アドオン)の読み取り... P.17

削除・拡張 P.18

目次

UPC-E 設定

読み取り可・不可 …… P.18

チェックデジットの転送 … P.18

付加コード(アドオン)の読み取り… P.19

削除・拡張 …… P.19

UPC-E1 設定

読み取り可・不可 …… P.20

チェックデジットの転送 … P.20

付加コード(アドオン)の読み取り… P.20

拡張 …… P.21

EAN-13 設定

読み取り可・不可 …… P.21

チェックデジットの転送 … P.21

付加コード(アドオン)の読み取り… P.22

ISBN/ISSNへの変換 …… P.22

EAN-8 設定

読み取り可・不可 …… P.23

チェックデジットの転送 … P.23

付加コード(アドオン)の読み取り… P.23

削除・拡張 …… P.24

目次

Code39 設定

読み取り可・不可 …… P.24

チェックデジットの検証 … P.24

チェックデジットの転送 … P.25

フォーマット認定 …… P.25

スタート・ストップキャラクタの転送 …… P.25

「*」をデータ文字として扱う …… P.26

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を確定する …… P.26

Code32に変換する …… P.28

Code32のPrefixを「A」にして送信する …… P.28

Trioptic Code 39の読み取り可・不可 …… P.28

Trioptic Code 39の開始・終了信号の送信 …… P.29

Interleaved 2 of 5 設定

読み取り可・不可 …… P.29

チェックデジットの検証 … P.29

チェックデジットの転送 … P.30

Industrial 2 of 5 設定

読み取り可・不可 …… P.30

目次

Matrix 2 of 5 設定

読み取り可・不可 P.30

Codabar(NW-7) 設定

読み取り可・不可 P.31

スタート・ストップキャラクタの設定 P.31

スタート・ストップキャラクタの転送 P.31

Code128 設定

読み取り可・不可 P.32

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.32

UCC/EAN128 設定

読み取り可・不可 P.34

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.34

先頭のゼロの読み取り設定 P.36

目次

ISBT128 設定

読み取り可・不可 …………… P.37

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する …………… P.37

Code93 設定

読み取り可・不可 …………… P.39

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する …………… P.39

Code11 設定

読み取り可・不可 …………… P.41

チェックデジットの検証………… P.41

チェックデジットの転送 …… P.41

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する …………… P.42

GS1 DataBar(GS1 DataBar Truncated)設定

読み取り可・不可 …………… P.43

変換 …………… P.43

GS1 DataBar Limited 設定

読み取り可・不可 …………… P.44

変換 …………… P.44

目 次

GS1 DataBar Expanded 設定

読み取り可・不可 P.45

変換 P.45

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.45

MSI/Plessey 設定

読み取り可・不可 P.47

チェックデジットの検証..... P.47

チェックデジットの転送 ... P.47

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.48

UK/Plessey 設定

読み取り可・不可 P.49

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.49

China Post 設定

読み取り可・不可 P.51

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する P.51

目次

PDF417 設定

読み取り可・不可 P.53

MicroPDF417 設定

読み取り可・不可 P.53

QR Code 設定

読み取り可・不可 P.53

日本語QR Code 設定 P.54

MicroQR Code 設定

読み取り可・不可 P.57

Data Matrix 設定

読み取り可・不可 P.57

目 次

Han Xin Code 設定

読み取り可・不可 P.57

Aztec Code 設定

読み取り可・不可 P.58

Prefix/Suffix 文字・機能の付加設定

Prefix設定 P.59

Suffix設定 P.61

転送コードID 一覧表 P.63

FN1 文字の置換設定 P.65

C1/C2/C3 文字の置換設定 P.68

非表示文字を入力するバーコード設定 P.71

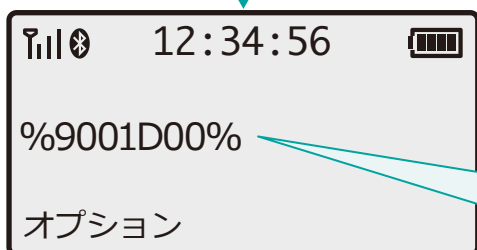
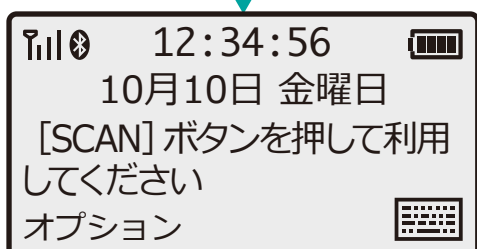
入力コード一覧 P.73

ASIIテーブル P.74

はじめに

設定コードの使用方法

本製品は専用の設定コードを読み取ることで、様々な設定を変更できます。
コードリーダーを下記の通り操作して次ページからの設定コードを読み込んでください。



ホームの「スキャン機能」画面に移ります。

 ボタンを複数回押すとホームに戻ります。

設定コードをスキャンします。
コードリーダーのスキャン部をコードに向けて

 ボタンを押して読み取ってください。



設定コードを読み取るときは、周りの読み取りたいコード以外を隠して読み取ってください。別のコードを読み取って設定がうまくできない場合があります。

読み取ったコードが液晶画面に表示され、
コードに付随した機能が製品に反映されます。

コード下の文字列が表示されます。
読み取りたいコードが正常に読み取られているか確認してください。

 ボタンを押して続けて他の設定コードを読み取ることができます。

 ボタンを押して前の画面に戻ることができます。

スキャン部のLED設定

スキャン部のLEDの常時消灯、スキャン時のみ点灯などを設定できます。

白色LED

スキャン部から広範囲に照射される白色LEDの設定ができます。

常時消灯



常時点灯



スキャン時のみ点灯



赤色エイミングレーザー

スキャン部から照射されるセンターの赤色の四角い光の設定ができます。

常時消灯



常時点灯



スキャン時のみ消灯



スキャン時のみ点灯



2次元コード読み取り設定

2次元コードは種類により初期設定で読めるコード、読めないコードがあります。
すべて読み取り可、不可に設定したり、コードごとに読み取り可、不可に設定したりできます。

すべて読み取り可



%1001D02%

すべて読み取り不可



%1001D01%

PDF417のみ読み取り可



%1001D03%

QRコードのみ読み取り可



%1001D04%

Data Matrixのみ読み取り可



%1001D05%

MaxiCodeのみ読み取り可



%1001D06%

Aztec Codeのみ読み取り可



%1001D07%

Han Xin Codeのみ読み取り可



%1001D08%

2次元コード読み取り設定 の続き

初期設定に戻す



※「*」付きコード = 初期設定

センターモード設定

センターモードを有効にするとコードの読み取り範囲がセンター（赤い光の部分）のみになります。無効だとコードがセンター（赤い光の部分）に入っていなくても読み取ることができます。複数のコードが密集している場合、センターモードを有効にすることで狙ったコードだけを読み取ることができます。

センターモード有効



センターモード無効



スキャンモード設定

スキャンモードを下記2種類から設定できます。

Good-read off

スキャンボタンを1回押すと読み取りを開始します。
読み取りに成功するか、4秒間経過すると停止します。



Momentary

スキャンボタンを押している間だけ読み取りを行い、ボタンを離すと停止します。
読み取りに成功するか、スキャンボタンを押したまま4秒間経過すると停止します。



大文字・小文字変換(Case Conversion) 設定

バーコードに含まれるアルファベットの「大文字」と「小文字」を、コードリーダー側で自動的に変換してホスト(パソコンなどの接続機器)に出力する機能です。

すべて大文字で登録したい場合や、キーボードの「Caps Lock」状態による誤入力を防ぐ場合に設定します。

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



データのみ

バーコードに元々印字されている純粋なデータ部分だけを大文字・小文字変換の対象にします。コードリーダーが自動で付け足した文字(Prefix、Suffix、コードIDなど)は変換されず、そのまま出力されます。

すべて大文字に統一して出力



すべて小文字に統一して出力



▼文字列全体を変換するコードが次ページにあります。

大文字・小文字変換(Case Conversion) 設定 の続き

文字列全体

バーコードのデータだけでなく、コードリーダーが自動で付加したPrefix、Suffix、コードIDなども含めた、最終的にホスト(パソコンなどの接続機器)へ送信するすべての文字列をまとめて変換の対象にします。

すべて大文字に統一して出力



%8208D03%

すべて小文字に統一して出力



%8208D04%

UPC-A 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



付加コード(アドオン)の読み取り

付加コードは読み取らない



2桁の付加コードを一緒に読み取る



5桁の付加コードを一緒に読み取る



2桁か5桁か自動判別して読み取る



UPC-A 設定 の続き

削除・拡張

先頭のゼロを自動削除



EAN-13へ拡張する



UPC-E 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



UPC-E 設定 の続き

付加コード(アドオン)の読み取り

付加コードは読み取らない



2桁の付加コードを一緒に読み取る



5桁の付加コードを一緒に読み取る



2桁か5桁か自動判別して読み取る



削除・拡張

先頭のゼロを自動削除



EAN-13へ拡張する



UPC-Aへ拡張する



UPC-E1 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



付加コード(アドオン)の読み取り

付加コードは読み取らない



2桁の付加コードを一緒に読み取る



5桁の付加コードを一緒に読み取る



2桁か5桁か自動判別して読み取る



UPC-E1 設定 の続き

拡張

EAN-13へ拡張する



UPC-Aへ拡張する



拡張しない(そのまま出力)



※「*」付きコード = 初期設定

EAN-13 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



EAN-13 設定 の続き

付加コード(アドオン)の読み取り

付加コードは読み取らない



2桁の付加コードを一緒に読み取る



5桁の付加コードを一緒に読み取る



2桁か5桁か自動判別して読み取る



ISBN/ISSNへの変換

変換する



変換しない



EAN-8 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



付加コード(アドオン)の読み取り

付加コードは読み取らない



2桁の付加コードを一緒に読み取る



5桁の付加コードを一緒に読み取る



2桁か5桁か自動判別して読み取る



EAN-8 設定 の続き

削除・拡張

先頭のゼロを自動削除



EAN-13へ拡張する



Code39 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの検証

検証する



検証しない



Code39 設定 の続き

チェックデジットの転送

転送する



%1503D01%

転送しない



%1503D00% *

フォーマット設定

Standard Code39(標準モード)

社内管理用や製品ラベルなどで、数字と大文字アルファベットしか使わない場合におすすめです。誤読のリスクが低く、最も安全です。

Full ASCII Code39(拡張モード)

「小文字の入ったID」や「スキャンすると自動的に改行(Enter)やタブを入れたい」など、特殊な制御が必要なバーコードを扱う場合におすすめです。



%1508D00% *



%1508D01%

スタート・ストップキャラクタの転送

転送する



%1509D01%

転送しない



%1509D00% *

Code39 設定 の続き

「*」をデータ文字として扱う

データの中に「*」を含める必要がある特殊なコードを運用している場合、読み取りエラーになったり、途中でデータが途切れたりします。

その場合は「*」をデータ文字として扱う設定を「有効」にしてください。

有効にする



無効にする



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



Code39 設定 の続き

2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



Code39 設定 の続き

Code32に変換する

変換する



変換しない



Code32のPrefixを「A」にして送信する

Code32に変換して出力し、前(Prefix)に「A」を追加します。

※上記の「Code32に変換する」を「変換する」に設定しておく必要があります。

転送する



転送しない



Trioptic Code 39の読み取り可・不可

読み取り可と、読み取ったバーコードが「標準のCode39」なのか「Trioptic Code 39」なのかを自動的に判別して読み取るようになります。

読み取り不可とTrioptic Code 39をスキャンしても、普通のCode39として扱われるか、あるいは規格違いとして読み取りエラーになる可能性があります。

読み取り可



読み取り不可



Code39 設定 の続き

Trioptic Code 39の開始・終了信号の送信

読み取り可



%1514D01%

読み取り不可



%1514D00% *

Interleaved 2 of 5 設定

読み取り可・不可

読み取り可



%1601D01% *

読み取り不可



%1602D00%

チェックデジットの検証

USSで検証する



%1602D01%

検証しない



%1602D00% *

Interleaved 2 of 5 設定 の続き

チェックデジットの転送

転送する



転送しない



Industrial 2 of 5 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Matrix 2 of 5 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Codabar(NW-7) 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



スタート・ストップキャラクタの設定

ABCD・ABCD表記にする



abcd・abcd表記にする



ABCD・TN*E表記にする



abcd・tn*e表記にする



スタート・ストップキャラクタの転送

転送する



転送しない



Code128 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



Code128 設定 の続き

2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



UCC/EAN128 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



UCC/EAN128 設定 の続き

2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



UCC/EAN128 設定 の続き

先頭のゼロの読み取り設定

先頭のゼロを削除しない

例) データが「000123」の場合
→ 出力: 000123



すべての先頭の0を削除

例) データが「000123」の場合
→ 出力: 123



最初の0だけ削除

例) データが「000123」の場合
→ 出力: 00123



ISBT128 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



ISBT128 設定 の続き

- 2.** 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



- 3.** 下記のコードを読み取って設定を終了します。



Code93 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



Code93 設定 の続き

2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



Code11 設定

読み取り可・不可

読み取り可



%2201D01%

読み取り不可



%2201D00% *

チェックデジットの検証

検証しない



%2202D00%

末尾の1桁を使って正誤チェックを行う



%2202D01% *

末尾の2桁を使って正誤チェックを行う



%2202D02%

チェックデジットの転送

転送する



%2203D01%

転送しない



%2203D00% *

Code11 設定 の続き

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。 例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



Code11 設定 の続き

3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



GS1 DataBar (GS1 DataBar Truncated) 設定

読み取り可・不可

読み取り可

読み取り不可



変換

変換しない

UCC/EAN128へ変換



UPC-A or EAN-13へ変換



[目次に戻る](#)

GS1 DataBar Limited 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



変換

変換しない



UCC/EAN128へ変換



UPC-A or EAN-13へ変換



GS1 DataBar Expanded 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



変換

変換しない



UCC/EAN128へ変換



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



GS1 DataBar Expanded 設定 の続き

- 2.** 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



- 3.** 下記のコードを読み取って設定を終了します。



MSI/Plessey 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



チェックデジットの検証

検証する



末尾の1桁(モッド10)を照合する



末尾の2桁(モッド10・モッド10)を照合する



末尾の2桁(モッド10・モッド11)を照合する



チェックデジットの転送

転送する



転送しない



MSI/Plessey 設定 の続き

読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

※初期設定で対応している上限の最大は99桁、下限の最小は4桁です。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。

例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



MSI/Plessey 設定 の続き

3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



※「*」付きコード = 初期設定

UK/Plessey 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



UK/Plessey 設定 の続き

2. 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



China Post 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



読み取るデータの文字数(桁数)の下限・上限を指定する

特定の桁数以外の誤読を防いだり、システム上の制限に合わせたりする場合などに指定します。長いバーコードを読み取る際、途中で「ストップキャラクタ」と誤認されるようなものが入っても、最大桁数を正しく設定していれば、不完全なデータがシステムに送信されるのを防げます。

1. 下記のどちらかのコードを読み取って設定を開始します。

〈上限を指定する場合〉



〈下限を指定する場合〉



China Post 設定 の続き

- 2.** 設定したい桁数のコードを2桁で読み取ります。
例) 5桁に設定する場合、「0」→「5」のコードを順番に読み取る。



- 3.** 下記のコードを読み取って設定を終了します。



PDF417 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



MicroPDF417 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



QR Code 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



日本語QR Code 設定

下記の手順で設定を行ってください。



- ※USB接続時のみ対応です。
- ※Windowsの出力にのみ対応です。
- ※エンコードはSHIFT-JISに対応します。
- ※ワード、メモ帳への対応します。

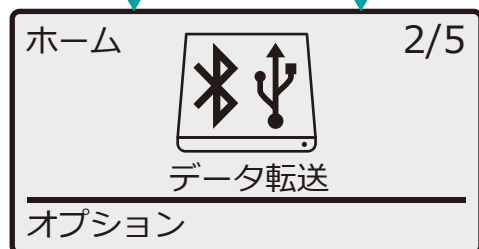
1. データ伝送方式の設定をします



ホームの「スキャン機能」画面に移ります。



ボタンを複数回押すとホームに戻ります。



「データ転送」画面に移ります。



「2.USB HIDキーボード」にチェックを入れます。



ボタンを押してカーソルを動かします。



ボタンを押してチェックマークを入れます。

日本語QR Code 設定 の続き

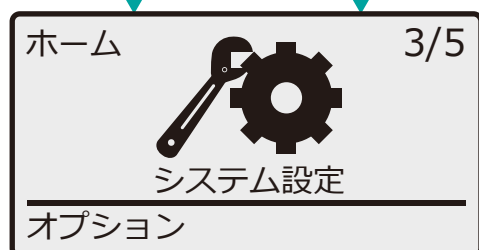
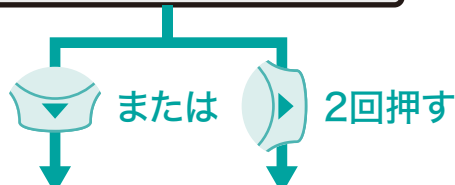
2.データ伝送方式の設定をします



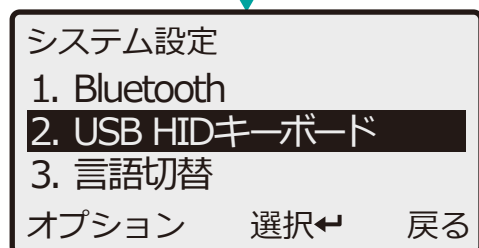
ホームの「スキャン機能」画面に移ります。



ボタンを複数回押すとホームに戻ります。



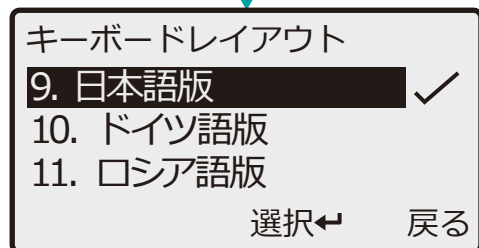
「システム設定」画面に移ります。



「2.USB HIDキーボード」を選択します。



ボタンを押してカーソルを動かします。



ご使用のキーボードレイアウトを選択してチェックマークを入れます。



ボタンを押してカーソルを動かします。



ボタンを押してチェックマークを入れます。

日本語QR Code 設定 の続き

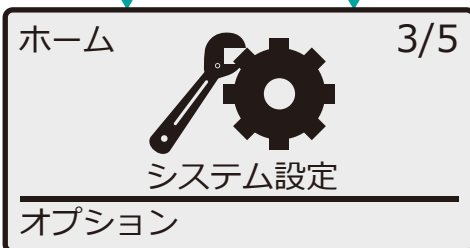
3.エンコーディングの種類を設定します



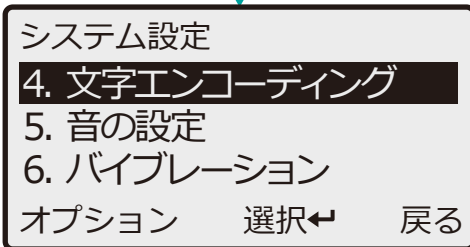
ホームの「スキャン機能」画面に移ります。



ボタンを複数回押すとホームに戻ります。



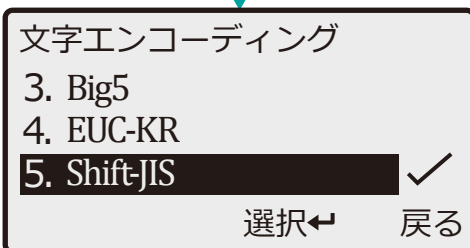
「システム設定」画面に移ります。



「4.文字エンコーディング」を選択します。



ボタンを押してカーソルを動かします。



設定したい文字エンコーディングを選択してチェックマークを入れます。



ボタンを押してカーソルを動かします。



ボタンを押してチェックマークを入れます。

MicroQR Code 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Data Matrix 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Han Xin Code 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Aztec Code 設定

読み取り可・不可

読み取り可



読み取り不可



Prefix/Suffix 文字・機能の付加設定

読み取ったバーコードデータの「前 (Prefix)」や「後 (Suffix)」に、特定の文字や機能を付加できます。※初期設定は、Prefix:なし、Suffix:Enterに設定されています。

Prefix設定

1. 下記のコードを読み取ってPrefix設定を有効にします。
※あらかじめ読み取り可にしている場合は不要です。
初期設定は読み取り付加になっています。

読み取り可



2. 下記のコードを読み取ってPrefix設定を開始します。



3. 読み取ったコードの頭に挿入したい文字や機能のコードを入力します。
 1. 頭に挿入したい文字や機能をP.74、P.75のASCIIテーブルから探します。
 2. その文字や機能のASCIIテーブルの①、②の値を確認します。
 3. P.73の入力コード一覧から①、②の値に該当するコードを順に読み取ります。

4. 下記のコードを読み取ってPrefix設定を終了します。



Prefix/Suffix 文字・機能の付加設定 の続き

5. Prefix設定をリセットしたい場合は下記のコードを読み取って無効にします。

読み取り不可



Prefix設定例)読み取ったコードの頭に「\$」を挿入して出力する

元のコードデータ	123A5A
挿入後のコードデータ	\$123A5A

例)テストコード



1. コードを読み取って設定を開始します。



2. 「\$」をP.75のASCIIテーブルで見ると①:2、②:4なので
P.73の「2」と「4」のコードを読み取ります。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



Prefix/Suffix 文字・機能の付加設定 の続き

Suffix設定

1. 下記のコードを読み取ってSuffix設定を読み取り可にします。
※あらかじめ読み取り可にしている場合は不要です。初期設定は読み取り可です。

読み取り可



2. 下記のコードを読み取ってSuffix設定を開始します。



3. 読み取ったコードの末尾に挿入したい文字や機能のコードを入力します。
 1. 末尾に挿入したい文字や機能をP.74、P.75のASCIIテーブルから探します。
 2. その文字や機能のASCIIテーブルの①、②の値を確認します。
 3. P.73の入力コード一覧から①、②の値に該当するコードを順に読み取ります。
例)「A」にする場合はP.73の「4」「1」の順でコードを読み取ります。

4. 下記のコードを読み取ってSuffix設定を終了します。



Prefix/Suffix 文字・機能の付加設定 の続き

5. Suffix設定をリセットしたい場合は下記のコードを読み取って無効にします。

読み取り不可



Suffix設定例)読み取ったコードの末尾に「Tab」を挿入して出力する

元のコードデータ	123A5A
挿入後のコードデータ	123A5A _(Tab)

例)テストコード



1. コードを読み取って設定を開始します。



2. 「Tab」をP.74のASCIIテーブルで見ると①:0、②:9なのでP.73の「0」と「9」のコードを読み取ります。



3. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



転送コードID 一覧表

コードリーダーがホスト（パソコンなどの接続機器）に対して「今から送るデータは、〇〇という種類のバーコードです」という“記号（Code ID）”を送信する機能です。

下記の設定コードをあらかじめ読み込んで設定しておくことで、各コードの頭にIDを追加できてより効率的にコード種類を識別できて分類できます。

Proprietary code IDを表示

※工場が設定した識別ID



%8206D01%

AIM code IDを表示

※国際標準企画に基づいた識別ID



%8206D02%

転送コードIDを表示させない(設定を元に戻す)



%8206D00%

*

使用例)

『MSI:112233』『CODE11:112233』と、
コード内容が同じでどのコードか判断しにくい場合、
「Proprietary code IDを表示」の設定コードをあらかじめ読み込んでおくと
『MSI:○112233』『CODE11:V112233』と出力されて識別しやすくなります。

■転送コードID 一覧表

	コード名	Proprietary code ID	AIM code ID
1	UPC-A	A	]Em
2	UPC-E	D	]Em
3	UPC-E1	D	]X0
4	EAN-13	A	]Em
5	EAN-8	C	]E4

転送コードID 一覧表 の続き

	コード名	Proprietary code ID	AIM code ID
6	ISBN/ISSN※1 (Bookland EAN)	B	]Em
7	Code39	M	]Am
8	Interleaved 2 of 5	I	]Im
9	Industrial 2 of 5	H	]SO
10	Matrix 2 of 5	X	]XO
11	Codabar	N	]Fm
12	Cade 128	K	]Cm
13	UCC/EAN 128	K	]Cm
14	ISBT 128	K	]Cm
15	Code 93	L	]Gm
16	Code 11	V	]H3
17	MSI/Plessey	O	]Mm
18	UK/Plessey	U	]Mm
19	China Post	T	]Im
20	China Finance	Y	-
21	GS1 DataBar	R	]em
22	GS1 DataBar Truncated※2	R	]em
23	GS1 DataBar Limited	R	]em
24	GS1 DataBar Expanded	R	]em
25	GS1 Composite	y	]em
26	PDF417	p	]Lm
27	MicroPDF417	p	]Lm
28	QR	q	]Qm
29	Micro QR	q	]Qm
30	DataMatrix	d	]dm
31	Han Xin Code	h	]XO
32	Code Aztec	a	]zm

※1:ISBN/ISSNとEAN-13の設定は一致している必要があります。

※2:GS1 DataBar TruncatedとGS1 DataBarの設定は一致している必要があります。

FN1 文字の置換設定

バーコードの中に含まれる特殊な制御用データ「FN1 (ファンクション1)」を、別の文字 (スペースやカンマ、タブなど) に置き換えて出力することができます。

※初期設定は、SP (スペース) に設定されています。

対象コード

UCC/EAN128、Code128、GS1 DataBar

1. 下記のコードを読み取って転送します。

※あらかじめ有効にしている場合は不要です。初期設定は無効になっています。

FN1 文字の置換設定の転送



2. 下記のコードを読み取ってFN1 文字の置換設定を開始します。



3. 制御用データ「FN1 (ファンクション1)」を置き換える文字を設定します。

(バーコードに含まれる制御用データが下記で選んだ文字に置き換えられます。)

1. 置換元の文字をP.74、P.75のASCIIテーブルから探します。
2. その置換元の文字のASCIIテーブルの①、②の値を確認します。
3. P.73の設定コード一覧から①、②の値に該当するコードを順に読み取ります。
例) 「A」にする場合はP.73の「4」「1」の順でコードを読み取ります。

4. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



[目次に戻る](#)

FN1 文字の置換設定 の続き

5. FN1 文字の置換設定をリセットしたい場合は下記のコードを読み取って無効にします。

読み取り不可



使用例) 制御文字データを「A」文字に置き換える。

元のコードデータ	1234 5678
置換後のコードデータ	1234A5678

1. コードを読み取って設定を開始します。



2. 「A」をP.75のASCIIテーブルで見ると①:4、②:1なのでP.73の「4」と「1」のコードを読み取ります。



FN1 文字の置換設定 の続き

3. 下記のコードを読み取って設定を終了し、転送します。



C1/C2/C3 文字の置換設定

コードデータの文字列内の文字を別の文字（スペースやカンマ、タブなど）に置き換えて出力することができます。1文字ずつ2文字まで（C1・C2）、または複数文字を一度に置換（C3）することができます。

※初期設定は、SP（スペース）に設定されています。

1. 下記の中から状況に合わせていずれかのコードを読み取って設定を開始します。

シングルキャラクター C1

バーコード内にFN1が複数あっても、最初に出てきた1つ目だけを置換し、2つ目以降のFN1はスルーします。



シングルキャラクター C2

バーコード内にFN1が複数あった場合、1つ目のFN1はそのままスルーし、2つ目に出てきたFN1だけを置換します。



マルチプルキャラクター C3

バーコード内に含まれるすべてのFN1を一括で置換します。



2. 置換元の文字を入力します。

1. 置換元の文字をP.74、P.75のASCIIテーブルから探します。
2. その置換元の文字のASCIIテーブルの①、②の値を確認します。
3. P.73の設定コード一覧から①、②の値に該当するコードを順に読み取ります。

C1/C2/C3 文字の置換設定 の続き

3. 置換後の文字を入力します。

1. 置換後の文字をP.74、P.75のASCIIテーブルから探します。
2. その置換後の文字のASCIIテーブルの①、②の値を確認します。
3. P.73の入力コード一覧から①、②の値に該当するコードを順に読み取ります。

2文字以上置換したい場合は手順4と手順5を繰り返します。



例) 入力コード一覧から「4」「1」「4」「2」「4」「3」「4」「4」の順で読み取ると元のコード「123A4C56」→置換後のコード「123B4D56」になります。

4. 下記のコードを読み取って設定を終了します。



%END%

5. C1/C2/C3設定をリセットしたい場合は下記のコードを読み取って無効にします。

読み取り不可



%8209D00%

*

C1/C2/C3 文字の置換設定 の続き

使用例) データ文字列内のすべての「A」文字を「B」文字に置き換える。

元のコードデータ	123A5A
置換後のコードデータ	123B5B

例) テストコード



1. コードを読み取って設定を開始します。



2. 「A」をP.75のASCIIテーブルで見ると①:4、②:1なのでP.73の「4」と「1」のコードを読み取ります。



3. 「B」をP.75のASCIIテーブルで見ると①:4、②:2なのでP.73の「4」と「2」のコードを読み取ります。



4. コードを読み取って設定を終了します。



非表示文字を入力するバーコード設定

通常、バーコードは文字や数字を出力するものですが、業務の自動化や効率化のためにあえて「目に見えない文字」をコード化することがあります。

下記は文字ではなく、『Enter』や『Tab』などのキーボード操作(アクション)そのもののバーコードです。

これを利用することで、現場で「バーコードをスキャンした後に、毎回キーボードのアクションキーを押す」といった手間を完全にゼロにすることができます。

- 非表示文字は画面に表示されないため、正しくバーコードに含まれているかどうかを目視で確認することができません。確認したい場合は、キーボードの入力信号をそのまま表示できる特殊なテストソフト(ラインモニターなど)を使用する必要があります。



- CODESOFTソフトウェアを使用する場合は、まず『Help→Index→Code128→Special input syntax』をご確認ください。

- CODE39などは、基本的に数字や大文字アルファベットしか表現できません。そのため、このような特殊な非表示文字を埋め込む場合は、表現力の高いCODE128や、QRコード、DataMatrixなどの2次元コードが使われます。



Up ↑



Down ↓



Left ←



Right →



Page Up



Page Down



Backspace



Tab

非表示文字を入力するバーコード設定 の続き



Home



End



Enter



Insert



Delete



F1



F2



F3



F4



F5



F6



F7



F8



F9



F10



Esc



F11



F12

入力コード一覧



ASCIIテーブル

		キーボードウェッジ専用		RS-232	
②	①	0	1	0	1
0		Null		Null	DLE
1		Up	F1	SOH	DC1
2		Down	F2	STX	DC2
3		Left	F3	ETX	DC3
4		Right	F4	EOT	DC4
5		PgUp	F5	ENQ	NAK
6		PgDn	F6	ACK	SYN
7			F7	BEL	ETB
8		Bs	F8	BS	CAN
9		Tab	F9	HT	EM
A			F10	LF	SUB
B		Home	Esc	VT	ESC
C		End	F11	FF	FS
D		Enter	F12	CR	GS
E		Insert	Ctrl+	SO	RS
F		Delete	Alt+	SI	US

ASCIIテーブル の続き

② ①	2	3	4	5	6	7
0	SP	0	@	P	`	p
1	!	1	A	Q	a	q
2	“	2	B	R	b	r
3	#	3	C	S	c	s
4	\$	4	D	T	d	t
5	%	5	E	U	e	u
6	&	6	F	V	f	v
7	‘	7	G	W	g	w
8	(	8	H	X	h	x
9	)	9	I	Y	i	y
A	*	:	J	Z	j	z
B	+	;	K	[	k	{
C	,	<	L	\	l	
D	-	=	M	]	m	}
E	.	>	N	^	n	~
F	/	?	O	_	o	DEL

例) ASCII 「A」=「41」

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

本書の内容は、予告なしに変更
になる場合があります。

最新の情報は、弊社WEBサイト
(<https://www.sanwa.co.jp/>)
をご覧ください。

弊社サポートページはこちら！

■サポート情報 ■Q&A(よくある質問)

■ソフトダウンロード ■各種対応表

など、最新情報を随時更新しています。

<https://www.sanwa.co.jp/support/support.html>

サンワサプライ株式会社

岡山サブライセンター / 〒700-0825 岡山県岡山市北区田町1-10-1	TEL.086-223-3311 FAX.086-223-5123
東京サブライセンター / 〒140-8566 東京都品川区南大井6-5-8	TEL.03-5763-0011 FAX.03-5763-0033
札幌営業所 / 〒060-0808 札幌市北区北八条西4-1-1 パストラルビルN8	TEL.011-611-3450 FAX.011-716-8990
仙台営業所 / 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-6-37 TM仙台ビル	TEL.022-257-4638 FAX.022-257-4633
名古屋営業所 / 〒453-0014 愛知県名古屋市中村区則武1-16-18 CUBE MEIEKI	TEL.052-453-2031 FAX.052-453-2033
大阪営業所 / 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-5-36 ONEST新大阪スクエア	TEL.06-6395-5310 FAX.06-6395-5315
広島営業所 / 〒732-0828 広島県広島市南区京橋町7-18 新井ビル	TEL.082-264-2716 FAX.082-264-2717
福岡営業所 / 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-3博多八百治ビル	TEL.092-471-6721 FAX.092-471-8078

CG/AI/HA